

主 題：天国民らしく生きる ②

聖書箇所：I テサロニケ 1 章

I テサロニケ 1 章をお開きください。私たちクリスチャンは天国民である、ゆえに天国民として生きることが望まれていますし、またそのように生きることができるとみことばは私たちに教えてくれます。

A. 本物の救いは人を変える

なぜそれが可能かという、我々が既に学んで来たように、本当の救いというのは神様によって私たちが変えられるからです。救いというのは人を変えるものです。だからあなたも変えられたのです。

B. 本物の救いは神のみわざ

1. 救いは、「神の選び」による 4 節「神に選ばれた者であること」

2. 救いは、「神の働き」による 5 節「神による救い」

本当の救いというのは神様のみわざです。私たちがどんなに努力をしても救いを得ることはできません。神があなたのうちに働いてくださる。神があなたを選んでくださり、神があなたのうちに働き、そしてこの救いを与えてくださる。

そういったことを私たちは見て来ました。もう一度私たちがこの箇所を学ぶに当たって、少なくとも覚えておいていただきたいことは、あなたは天国民として、救われた者としてふさわしく生きることができるのだということです。

3. 救いは、「神に似た者」へと変え続ける 7 節「霊的成長・変態をもたらす」

I テサロニケ 1:7「こうして、あなたがたは、マケドニアとアカヤとのすべての信者の模範になったのです。」とあります。本当の救いは神のみわざであり、神様が人を、あなたを選んでくださり、神様があなたのうちに働き、救いへと導いてくださった。それだけではなく救いというのは、あなたを神に似た者へと変え続けて行くと言うのです。主イエス・キリストに似た者へとあなたを変え続けてくれる。これが神様が与えてくださる救いです。霊的に成長するとか、変態ということばを使います。幼虫が成虫に変わって行く過程の話です。罪に染まった私たちがキリストに似た者へと変えられて行く、その過程の話です。このテサロニケのクリスチャンたちは、マケドニアとアカヤ地方、つまり今のギリシャ地方のすべてのクリスチャンたちの模範となっていたと。人々の手本、従うべき見本です。すばらしいことは、パウロたちや主にならって生きて来た彼らがほかのクリスチャンたちの模範へと成長して行ったということです。信仰は成長します。このみことばはそのことを私たちに教えてくれます。

パウロはII テサロニケ 1:3にこう言っています。「あなたがたの信仰が目に見えて成長し、あなたがたすべての間で、ひとりひとりに相互の愛が増し加わっているからです。」と。テサロニケのクリスチャンたちの信仰は成長していました。そしてすばらしい働きを彼らはしていたわけです。

① 霊的に成長したクリスチャンの特徴 3 節

我々はそのことを見て行くのですが、その前に霊的に成長したクリスチャンの三つの特徴を一緒に見たいと思います。このI テサロニケ 1:3でパウロはそのことを「絶えず、私たちの父なる神の御前に、あなたがたの信仰の働き、愛の労苦、主イエス・キリストへの望みの忍耐を思い起こしています。」と記しています。ここに「絶えず～思い起こしています」と書かれています。これはギリシャ語では一つのことばです。それが現在形で記されているから、このように日本語に訳したのです。ここでパウロが言うことは、私たち、つまりパウロたちがテサロニケのクリスチャンたちのことを考える時にあることを思い出したと言うのです。それは「信仰の働き、愛の労苦、……望みの忍耐」であると。そして今挙げた「信仰」・「愛」・「望み」というのは全部名詞ですが、実はパウロはこの名詞を主格属格という文法的におもしろい形で用いています。こういう形でこの名詞を用いた時には、この名詞が行動を生み出しているという意味があります。ですから、この名詞が文法的にどういう使われ方をしているのかを見た時に、パウロが言いたかったことがより明確に見えるわけです。パウロは、あなた方の信仰の生み出す働きと愛の生み出す労苦と、希望のもたらす忍耐を思い起こしていると言っているのです。つまりパウロが言っていることは、このテサロニケのクリスチャンたちの「信仰」・「愛」・「希望」は活着しているということです。それが証拠に彼らの「信仰」・「愛」・「希望」は働きを生み出していたのです。これが霊的に成長した人たちの特徴です。

ではもう少しこの三つの特徴を見て行きましょう。

・信仰の働き

その信仰がそういう働きを生み出していた。彼らはどういうふう生きていたのかというと、彼らは主を信じただけではなく、主の約束を信じ、主に信頼を置いて忠実に歩み続けていた。信仰者として生きることは、この当時この場所においては非常に大変でした。信仰に対する迫害がつきまとっていました。その中でも彼らは主に忠実に従い続けた。それがこの信仰の働きです。死んだ信仰ではない、どんな時でも主に従い続けようとした。

・愛の労苦

愛の労苦とあります。彼らは主を愛し、また人々を愛したゆえにすべてのことを人々のために、すべてのことを主のためにしたのです。喜んで犠牲を払っていた。だから苦しみと言わずに労苦と言っています。大変な苦しみがあるにもかかわらず、彼らは愛をもってすべてのことをしていた。彼らの行動の動機は愛でした。そのような思いをもって彼らはすべてのことをしていたと。

・望みの忍耐

これは明らかにイエス・キリストへの望みの忍耐です。主イエス・キリストが来られるという再臨への希望、また主ご自身がお持ちであった希望というものを持って彼らは生きたのです。恐らく彼らはきょうイエス様が帰って来られるとしたら、きょうイエス様が私を迎えに来てくださるとしたら、私は今、主の前に立つ準備ができているかどうかを考えながらその日その日を生きたのでしょ。それは私たちにとっても大切なことです。我々がこの肉体的な死をもってか、再臨をもってかわかりませんが、ひょっとしたらきょうが最後の日かもしれない。そしてその後我々は主の前に立つわけです。今主の前に立つことができるのかどうか、そのことを考えながらその日を生きた。Iテサロニケ1：10には、「神が死者の中からよみがえらせなされた御子、すなわち、やがて来る御怒りから私たちを救い出してくださいるイエスが天から来られるのを待ち望むようになったか、それらのことは他の人々が言い広めているのです。」と、テサロニケのクリスチャンたちはその日を待っていました。イエス様にお会いする日を今か今かと待っていた。それが彼らの信仰を成長させたし、また同時にそれが人々の模範となっていたのだとパウロは言います。

「信仰の働き」、「愛の労苦」、そして「望みの忍耐」、これが霊的に成長した人々の特徴です。信仰は生きていたし、愛も働きをなしていたし、その希望はきょうしっかりと主に忠実に生きる勇気をもたらした。私たちもこのような歩みをしたいものです。そのような歩みをなしておられる皆さんはますますそのように歩んでください。

進んで行く前に、少し皆さんとご一緒に考えたいことがあります。「信仰」と言うと、強く信じていれば自分の願っているもの、欲しいものを手に入れることができると考えておられる方が世の中にはいます。ひょっとしたら教会の中にもいるかもしれない。私たちは生まれながらに、あなたが本当に願っているものを手に入れるために必要なのは、もっと強く信じることだと。絶対にそれが与えられるのだと強く、強く信じるのがそれを手に入れる方法であると。私たちもそうやって生きて来ました。こういったことをすれば、ひょっとしたら神様は私たちの欲しい物を下さるかもしれないと。その考え方が間違っていることはもう説明するまでもありません。というのは私たちが信仰を持ち続けるというのは、信仰を強く持つことによって自分が考える最善が必ず与えられる、そういうことを信じ続けることではないのです。私たちは私たちの考える最善を求める今までの生き方から、神様が与えてくださる最善を求めて生きる生き方へと変わったわけです。なぜかという、我々はいつも私の考える最善が最善だと思いたいし、そう信じているのですが、そうでなかったこともこれまで多々あります。でも神様のなさる最善というのは間違いなく最善なのです。そしてそれはあなたにとっても私にとっても最善だと。だから私たちは神様の最善を求め続けるわけです。

今、受験のシーズンでうちもふたりの受験生を抱えていますから、いろいろなことを考えるわけですが、受験生を抱えている場合、子どもたちの合格を祈りますよね。子どもたちの不合格を祈ったりはまずしません。でもひょっとしたら、その志望校に受からないことが神のみこころである可能性もあるわけです。私たちがこの学校が一番いい学校だし、将来もすばらしいし、いろいろな夢も持てるし、ぜひこの学校にと思うわけです。でも必ずしもそれが最善であるかどうかは私たちにはわからない。でも少なくとも最善しか行なわれない神様にすべてをゆだねることができるし、そうやって生きて行くことができるのです。

実は、つい最近ある晩なかなか眠れなかったのです。眠れなかったのか、寝てもすぐ起きたのか、子どもたちの受験のことをいろいろ考えていると、私でもなかなか眠れなかった。目が覚めて、その日もそういうことを考えながら一日を過ごしたと思います。朝のデボーションの時ではなくて、今は携帯でもみことばが読めるようになっていたので、それを開いてみことばを読んでいる時に、箴言3：5「心を尽くして主に拠り頼め。自分の悟りにたよるな。」というみことばが記されていました。何か頭を叩かれたような気がしました。なぜかという、この箴言3：5が教えていることはこういうことです。「心を尽くして」というのはあなたの心のすべてをもってということ。心の一部だけではない、あなたの心のすべ

てをもって主に信頼を置きなさいということです。これはこうしなさいという命令形です。そしてその後「自分の悟りにたよるな」と否定的な命令が続くのです。「悟り」というのは自分が持っている知識や自分が立てた理由、また自分自身がよりどころとしているものです。そういったものに助けを求めて、そういうものに頼ってはならないというのがこのみことばで主が命じられたことです。しかもこの文章は否定の命令だけではない、即時的な禁止、今すぐそれをやめなさいと言っているのです。

そのみことばを見た時に主が何を教えようとされているのか明らかでした。一体何をしているのだ、私に信頼を置いているかと。そのことを神様の前に悔い改めたら、何が起こったか——。今この受験に対して楽しくて仕方がない。実はうちの娘も同じことを言っているのですけれども、楽しくて仕方がない。神様がどんなふうに通してくださるのが楽しくて仕方がない。だって皆さん、みことばはこう言うのです。「私のうちで、思い煩いが増すときに、あなたの慰めが、私のたましいを喜ばしてくださいますように。」(詩篇94:19)、こういったことが私たちのうちには起こるのです。あなたがずっと思い煩いを抱え続けることもできるのです。でもそこには何の勝利もないし、喜びもない。感謝なことに我々はそれを全部神のところに持って行くことができるのです。そして神様の慰めによって、私たちの魂が喜ぶこと、そういったことを経験できるのです。そして私もその祝福に与った。だから今うれしく仕方がない。通るとかすべるとか、そんなことはどうでもいいのです。今子どもたちは神様によって大切なレッスンを教えられている、どんなレッスンを学んでくれるのか期待するのです。そしてどんなレッスンを我々が学ぶのかと。

もう一つつけ加えなければいけないですけれども、私はそのことがわかって、「神様、ごめんなさい」と、神様の前に悔い改めたその夜、みんなを集めて謝罪をしました。お父さん、間違った模範を示していた、この受験のことで私自身の心がいろいろと思い煩っていたと。だから順番に三人に「許してくれる？」と。下がこう言いました、「今回だけはな」と。(笑)でもそうやって私たちは主に信頼することのすばらしさを学んで行くのです。

この「愛」の労苦というのを見た時に、確かにテサロニケのクリスチャンたちは、愛を持って働きをしていました。彼らの愛はそういう行動を生み出していた。そのことをパウロは称賛しているのですが、実は皆さんにある一つのことをぜひ見ていただきたいし、ぜひ覚えておいていただきたいのです。それはIヨハネ4:9「神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。」とあります。このみことばを直訳するとこうなります。これによって私たちに對する神の愛が明らかにされたのです。神がご自分のひとり子をこの世に遣わされた目的は、このお方によって私たちが生きるためであると。つまりこの9節のみことばが教えようとしていることは、神様の愛というのは、ことばで終わったのではないということです。そこには行ないが伴っていると言うのです。これによって私たちに對する神の愛が明らかにされたと言うのです。

ではこれによってというのは何かというと、ご自分のひとり子を世に遣わして下さった、この行為が神様があなたを愛していることの証拠だと言うのです。神様があなたを愛している証拠は、イエス・キリストご自身を父が送って下さったという事実、この行動がそれを証明していると。ですから神の愛は生きた愛です。神の愛は行ないが伴った愛です。主イエス・キリストの恵みによって救われた私たちにも同じことが起こるのです。神が与えて下さった神の愛が私たちを通して行ないを生み出して行くのです。だから、弱っている人がいたらその人を励ましてあげたいとか、力づけてあげたいとか、そういう人たちのために祈りたいとかいう思いを皆さんが持ったり、物質的な必要があったらそれにこたえて行こうとするのは、神様があなたや私に下さった愛がそういう行ないを生み出して行くからです。だからテサロニケのクリスチャンたちが「愛の労苦」と言った時に、それは大変なことではなかった。神様が彼らを通して働いておられた。それが私たちが神様からいただいた生きて働く愛です。

② 靈的成長の秘訣

さて、もう一度きょうのテキストに戻っていただいて、テサロニケのクリスチャンたちが信仰において非常に成長した者たちであったということはよくわかります。ではどうやったら私たちも彼らと同じように信仰において成長するのかです。二つのことを今から見て行きます。

(1) 神の助けによる靈的成長

一つは、私たちの信仰というのは神の助けによって成長するのです。先ほどIIテサロニケ1:3をお読みしました。パウロはあなた方の信仰が目に見えて成長していることを喜んでいました。3節のみことばの初めに「兄弟たち。あなたがたのことについて、私たちはいつも神に感謝しなければなりません。そうするのが当然なのです。なぜなら」と書いています。パウロはテサロニケのクリスチャンたちが信仰において成長していた様子を見て、神様をほめたたえるのです。神が彼らの信仰を成長させて下さっていることを知っていたからです。Iテサロニケ4:9にも兄弟に対する愛について「兄弟愛については、何も書き送る必要がありません。あなたがたこそ、互いに愛し合うことを神から教えられた人たちだからです。」と言っ

ています。神様が彼らにその大切な愛し合うことを教えてくれたと出て来ました。またパウロはⅠコリント3：6で「私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。」とも言っています。信仰は神様が成長させて行ってくれるのです。だからパウロはクリスチャンたちが成長していくようにと祈り、そのためにとりなしています。Ⅰテサロニケ3章の中にも、またⅡテサロニケ1：11にもパウロは彼らの信仰が成長するようにと祈っています。

私たちも名簿を見た時にお互いのことがわかります。愛する兄弟の信仰が成長するように、この姉妹の信仰が成長するように祈っていくことです。礼拝の後にでも、皆さんがともに集まった時に、互いの信仰が成長するように祈り合うということは非常に大切です。ひょっとしたら私たちの信仰生活の中で一番忘れられている働きの一つが祈りかもしれない。祈らなくてもできます、祈らなくてもやって来ました。そんなことは可能ですか？神に喜ばれる働きをしようと思ったら、神の知恵と助けが絶対に必要です。このテサロニケのクリスチャンたちの様子を見た時に、パウロは彼らのために祈っていたし、彼らがパウロのためにも祈っています。少なくとも私たちは互いの成長のために祈り合っていくという働きを今すぐ始めることができる。

(2) 忠実さによる霊的成長：成長の責任——人にも責任あり

確かに神様が私たちの信仰を成長させてくださるのですが、もう一つ我々の忠実さによって信仰は成長します。あなたの信仰が成長するために必要なのは、主に対する忠実さです。こういった責任が私たちにあるということです。このテサロニケのクリスチャンたちがどういうふうに変化して行ったのかを見てみましょう。

もう一度Ⅰテサロニケ2：13を見てください。ここに「こういうわけで、私たちとしてもまた、絶えず神に感謝しています。あなたがたは、私たちから神の使信のことばを受けたとき、それを人間のことばとしてではなく、事実どおりに神のことばとして受け入れてくれたからです。この神のことばは、信じているあなたがたのうちに働いているのです。」とあります。テサロニケの人々は神様を信じただけではない。神のおことばを素直に受け入れたのです。これは神様からのメッセージだと言って、彼らはみことばを受け入れたのです。皆さんもそんなふうに変化しておられますか？主よ、どうぞ語ってくださいという祈りを持って神様のおことばを日々ごらんになっておられますか？テサロニケのクリスチャンたちは神様のおことばを神様からのメッセージだと信じて素直に受け入れ、彼らはそのメッセージに従おうとしたのです。ですからまず、成長するためにはみことばが必要なのです。みことばを感謝していただくことが必要です。喜んで受け入れることが必要です。同時にみことばに従っていくという従順の決意も必要です。みことばをただ聞くだけではない。そのみことばに喜んで従っていくという決意が必要なのです。

主への従順というのは、主の救いによって生まれます。つまり救われた人は従っていくとします。また同時に主への従順というのは、主とあなた自身の立場、関係を正しく認識するところから始まります。あなたと神様の関係を正しく認識することです。Ⅰテサロニケ1：9に「私たちがどのようにあなたがたに受け入れられたか、また、あなたがたがどのように偶像から神に立ち返って、生けるまことの神に仕えるようになり、」と記されています。明らかにこの聖書の箇所が教えることは、テサロニケのクリスチャンたちはこれまで神に逆らってきたその罪を悔い改めて、神様に従う者に生まれ変わったという話です。「生けるまことの神に仕える」とありますが、ぜひ見ていただきたいことばは、この「仕える」という動詞です。この言葉の意味は「奴隷として仕える」ということです。しかも現在形です。彼らは奴隷として仕え続けていくということです。

つまりテサロニケのクリスチャンたちは、この主イエス・キリストの福音のメッセージを聞いて、主イエス・キリストを信じようという選択に至った時に、この方はすべてをお造りになった創造主なるまことの神であり、私はその方によって造られた被造物にすぎないと、彼らはしっかりとらえていたのです。まさに私たちは陶器師が作った陶器のようなものです。陶器師が気に入らなければ壊しても誰ひとり文句は言えません。そのような存在だということです。ですから、イエス様を信じるということは、この方の奴隷として、この方に忠実に従っていくという決心なのです。それまで私たちは罪の奴隷として喜んで罪に従順に従って生きていました。その誤った生き方をやめてまことの神様の奴隷として、この方に従順に従っていくという選択をした。それが救いなのです。

それがわかっているテサロニケのクリスチャンたちは、神様のおことばとしてメッセージを受け取りました。神がこのことを命じておられるということを聞いた時に、そこには自分の意見を挟む余地はなかったのです。神がこう命じておられるのならこれを行ないますと。なぜなら私はこの方の奴隷としてこの方をうやまい、この方に従って行きます。この方が言われたことを私は守って行きます、私はこの方が喜ばれることのために最善を尽くしていきますというのがこのメッセージの中に記されていることです。そういう信仰を持って彼らは歩んだのです。

そして、その関係は我々が天に行っても変わらないのです。この方は永遠に神なのです。この方はす

べてのものをお造りになった創造主なるお方であり、すべての被造物から崇拝を受けるにふさわしい方です。私たちはその方によって造られたものにすぎないのです。私たちはどんなに努力しても神にも天使にもならない。私たちは神様の恵みによってこの救いに与り、神を礼拝する者として生まれ変わりました。地上にいても天に召されても我々は常にこの方を礼拝し続けるのです。「何とすばらしい神！」と言って私たちはこの方をたたえ続けて行くのです。ですから、このテサロニケのクリスチャンたちが信仰において成長して行ったのは、彼らは神様からのメッセージを見た時に、また聞いた時に、これは神ご自身、私のご主人からのメッセージであり命令なのだ、私はそれに従う責任がある、私はそれに従って行きたいと、彼らはそれを実践したからなのです。ただみことばを聞くだけである場合、そこには信仰の成長など絶対見られません。みことばを聞き、みことばを実践して行こうとする時、神が言われたことを守り行なって行こうとする時に神様が私たちのうちに働き、我々は成長するのです。テサロニケのクリスチャンたちはそうしてみことばを受け入れ、みことばに従ったのです。主の奴隷として、神の命令に従い続けたのです。

③ 霊的成長の大切さ：人々に模範を示す責任がある！

(1) 信者に模範を示す：Ⅱテサロニケ3：9

最後になぜ私たちは霊的に成長することが必要なのか——。霊的に成長する、信仰において成長する、そんなことばかり聞いているわけですが、なぜそれが必要なのか。それは私たちには大切な務めがあるからです。人々に模範を示すという責任です。Ⅱテサロニケ3：9に「それは、私たちに権利がなかったからではなく、ただ私たちを見ならうようにと、身をもってあなたがたに模範を示すためでした。」と書いてあります。パウロたちはテサロニケの町を訪問した時に、テサロニケの人々の模範としてふるまった、模範として行動したと言うのです。なぜかという、そういう責任が私たちにはあるからです。Ⅰテサロニケ1：5に「なぜなら、私たちの福音があなたがたに伝えられたのは、ことばだけによったのではなく、力と聖霊と強い確信とによったからです。また、私たちがあなたがたのところ、あなたがたのために、どのようにふるまったかは、あなたがたが知っています。」と記されています。「ふるまった」ということばが出てきます。Ⅰテサロニケには12回も出て来ます。Ⅱテサロニケには1回しか出て来ません。つまり個人としてのふるまいです。ひとりひとりがどのような行動をとったか、どのような態度をとったか、そのことに言及しているのです。ですからこのみことばが教えてくれることは、パウロたちはテサロニケを訪問した時に、その町にあって人々の前でどのようにふるまうべきなのか十分に注意を払いながら生きていたと言っているのです。

そしてⅠテサロニケ1：6には「あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちと主とにならう者になりました。」とあります。「ならう者にな」という非常に面白いことばが使われています。この「ならう者」ということばから英語の“mimic”ということばが出ています。これは物まね、見習う者とか模倣者とかいうことです。6節を見ると、今まで学んで来たように、テサロニケのクリスチャンたちは自分たちに福音を語ってくれたパウロたちを見て、この人たちのように生きて行こうとしたのです。なぜかという、パウロたちは彼らの前にあって模範を示していたからです。そしてそのように歩み始めた彼らが主を模範として生きて行くことによって、今見て来た信仰が成長して来たのです。

* 模範としての歩み：天国民としての歩み 8-10節

そうすると、今度は彼らの生きざまを見て、今のギリシャの多くの人々が、私たちもあのテサロニケのクリスチャンたちのように生きて行きたいと。今度は彼らが模範を示す者になったと。彼らは天国民として生きていたのです。

Ⅰテサロニケ1章の中に彼らがどんな歩みをしていたのかを簡単に説明します。

・主を証ししていた 8節

8節「主のことばが、あなたがたのところから出てマケドニアとアカヤに響き渡っただけでなく」、彼らは主を証していたのです。彼らはイエス様とこのすばらしい救いを人々に証していたのです。主のことばが彼らのところから広がって行ったと8節のみことばが教えています。

・主を信頼していた 8節

同じように8節「神に対するあなたがたの信仰はあらゆる所に伝わっているので、」と、彼らは伝道しただけではない。彼らは常に主に信頼を置いて歩んでいた。信頼するということがどういうことかを彼らが生きざまをもって示していたのです。神に対するあなた方の信仰が至るところに広がっていると。人々はテサロニケのクリスチャンたちは本当に神様を信頼し切っているよ、こんな迫害の中で、こんな困難の中で彼らは神をしっかりと見上げて、そして従い続けていると。そういうことを人々は口にしたのでしよう。

・主に仕えていた 9節

また9節、彼らは生けるまことの神に奴隷として喜んで従っていた。それが人々の間で大きな模範になっていた。

・主を待望していた 10節

四つ目に10節のところ、「また、神が死者の中からよみがえらせなされた御子、すなわち、やがて来る御怒りから私たちが救い出してくださるイエスが天から来られるのを待ち望むようになったかそれらのことは他の人々が言い広めている」と。主を待ち望んでいたのです。イエス様が早く帰って来られるように。もう既に見て来たように彼らはそのことを待ち望みながら生きていました。

我々信仰者がしっかり覚えなければいけないのは、私たちは人前でどのようなふるまいをするか、どのように生きるかということにおいて大変大きな責任を負っているということです。皆さんがあなたのことを見ているからです。

(2) つまづきを与えない：

そこで、パウロのこの警告を皆さんと一緒に見たいのです。Iコリント10：32「ユダヤ人にも、ギリシヤ人にも、神の教会にも、つまづきを与えないようにしなさい。」と。つまづきを与えてはならないという神様からのメッセージです。

・信者につまづきを与えないように

「神の教会にも」と書いてあります。つまりクリスチャンたちに対するメッセージです。クリスチャンであるあなたは兄弟姉妹たちに対してつまづきを与えてはならないと記されています。彼らの信仰が弱ってしまうことがないように、最大限の注意を払いなさいと。我々クリスチャンが互いに何をするかという、このIテサロニケ5：11にあるように「互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい。」と書いてあります。ですから、本来ならば互いの信仰が成長するために、励まし合って行くこと、高め合って行くこと、それが私たちの責任だけれども、中にはつまづきを与えてしまうことがあって、だからそういうことをしてはならないと警告されているのです。私たちの言動は周りの弱いクリスチャンたちにとって模範とならなければならないと。

その警告をしっかり覚えた上で、ひょっとしたらこの中で実は私もだれかクリスチャンのそういった言動によってつまづいたのだという人がおられるかもしれない。その皆さんへのメッセージですけれども、あなたにつまづきを与えた人のことを責めることもできます。今あなたがこうして苦しんでいるのは彼らのせいだと言うこともできます。でもそこには何の勝利もありません。確かに経験されたことはとっても辛かったかもしれない。とっても心が痛んだかもしれない。でも、その中にあって神様があなたに望んでおられることは、正しい選択をしなさいということです。何度も我々は学んで来ているように、どんな時でも神があなたや私に望んでいるのは、さまざまな状況においてどのように神を喜ばせるかを考えることです。あなたが経験しているすべてのことは神がよしとされたのです。あなたや私にとって大切なレッスンを学ぶ機会なのです。

ではなぜ苦しんでいるのかお教えしましょう。それは選択が間違っているからです。みことばは「悪に負けてはいけません。かえって、善をもって悪に打ち勝ちなさい」(ローマ12:21)と言います。人がどんな悪をしたとしても、あなたの責任は神が喜ばれる正しいことを行ないなさいと。イエス様ご自身もIペテロ2：23で、「ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。」と言います。仕返しをしてやろうなんて、それはあなたのすることではないのです。神に任せておきなさいと言うのです。あなたの責任は神が喜ばれることを選択しなさいと。その時しかあなたはその問題に勝利することはできません。ずっと心の中にそういう問題を抱えていると、苦しくなってくる。その問題に、その苦しみに勝利するためには、あなたは神の前に正しいことをしなければいけないのです。神が喜ばれることを選択する時に、あなたはそういった問題から解放されます。なぜなら主が喜んでおられるからです。

・未信者にもつまづきを与えないように

もう一回見ていただきたいのは、Iコリント10：32「ユダヤ人にも、ギリシヤ人にも、つまづきを与え」るなど書いてあります。つまり未信者にもつまづきを与えるなというメッセージです。あなたのふるまいに関してはあなたに責任があります。でもあなたが誤ったふるまい、主の栄光を現わさないふるまいをするならば、未信者の人たちもつまづいてしまう。つまづいたら、彼らは福音に近づいて来ません。かえって福音から遠ざかってしまう。だからつまづきを与えてはいけないと言うのです。少なくとも私たちが覚えるべきことは、私たちには人々の前で模範を示すという大きな責任があるということです。いろいろな面で我々は失敗をします。完璧な模範を示せないのも事実です。だったらそれを心から謝罪して赦しをいただいて正しく歩めばいい。なぜならそのことも神の前に喜ばれる正しいことだからです。

結論：

さて、きょう私たちが見て来たテサロニケの教会へのメッセージ。パウロたちはテサロニケ人たちの教会にこのメッセージを送りました。教会とは一体何でしょう？皆さんどんなふうに理解しておられるでしょう？建物と思っておられる方もいるかもしれない。ある方は交わる場所と言われるかもしれない。ともに気の合う連中が集まって、お茶を飲んで楽しい時間を過ごす、社交場のような。でも残念ながらそれは教会ではない。教会というのは、主なる神の目的のために召し出された者たちの集まりなのです。神様の目的に沿って、神によって召し出された者たちの集まりなのです。つまり我々クリスチャンが覚えなければいけないのは、教会を構成しているクリスチャンが覚えなければいけないのは、神は目的を持ってあなたを召し出してくれたということです。あなたにも私にもこうして生かされているには目的があるということです。どんな目的か——。私たちクリスチャンは証人として生きるという目的を負っています。

我々はこの世にあって、創造主なる唯一まことの神がどんなにすばらしいお方であるかを証するのです。私たちの神がどんなに偉大な方であるかを人々に証して行くのです。罪を赦され、救いに与ったことがどんなにすばらしいことなのか、罪の赦しに与ったあなたしかこのすばらしさを伝えることはできません。それを伝える証人だと言うのです。主によって生かされていることがどんなに感謝なことなのかを伝えて行く証人です。この世の中には絶望の中に生きている人たちがあふれているのではないですか。生きることはすばらしい、人生はすばらしいということを私たちがそういう人たちに示すことができる。主とともに生きることがどんなに心強いのかを示して行くのです、証して行くのです。我々ひとりぼっちではないのです。世の中は孤独を感じている人たちが満たされています。でも我々はひとりでもひとりではないのです。全能なる神がいつもともにいてくださる。私のことをだれよりもわかってくださり、必要を与えてくださり、励ましを下さる。そんな方とともに歩めるという祝福をいただいた者として、それを人々の前に証するという責任があると言うのです。

どんなに辛い時でも、主にあらゆる重荷を委ねて生きることができ、どんなにすばらしいかを人々に証して行きます。たくさんの人々が耐え切れない重荷を背負って生きているのです。私たちはその重荷を主に委ねることができるのだということを学んだのです。こんなふうに生きて行くことができるのだとみんなに証しするのです。あなたや私の重荷を負ってくださる神がいるのだと。我々の神は常に最善をなしてくださるお方だということを信じているのは私たちだけです。だからどんな時でもどんなことを神様がしてくださるのか私たちは神に期待できるのではないですか。常に最善をなさる神によって導かれていることがどんなにすばらしいのか、我々は人々に証して行くのです。思い煩うようなことが起こっても、私たちはすべてを主に委ねることができる。そんな人生を私たちは生きているのです。そのことを人々に証しするのです。主に祈りながら歩めることがどんなにすばらしいのかを人々に証するのです。神がいつもそばにいて、私の心のうちを聞いてくださると。どんなことでもこの方にお話できると。その祝福に与ったことを人々に証して行くのです。

信仰者の皆さん、私たちは教会に属する者であり、我々がその構成メンバーです。あなたは神様の目的によって神様が罪の中から召し出してくださった。神は神様のすばらしさを人々に証するためにあなたを使おうとしてくださっている。あなたは祝福をいただいた。その祝福がどんなにすばらしいかを人々に伝えてあげてください。その祝福を下さった神がどんなにすばらしいかを伝えてあげてください。そうやって生きるのです。それが天国民らしく生きる、生き方です。あたかも我々は天国にいるかのように、このすばらしい神様を証ししながら生きて行く。そんな歩みをあなたも私も実践できるのだと。どうぞみことばが教えてくれたことをしっかり覚えてその実践に励みましょう。主があなたを助けてくださって、きょうからそのような歩みをもって神様のすばらしさを人々に証することができます。そのことを期待しながらきょうを歩んで行きましょう。

<考えましょう>

1. クリスチャンとして人々の模範になることが大切であることを学びましたが、その理由を挙げてください。
2. テサロニケのクリスチャンたちは、他のクリスチャンたちの模範でした。どのような点において彼らは模範を示していましたか？
3. 信仰が成長するために、あなたは何をしなければなりませんか？
4. 互いの信仰が成長するために、私たちは何をしなければなりませんか？